

巻頭言

東北創生に貢献する 「国際リニアコライダー」の誘致実現を

NPO法人とうほくPPP・PFI協会

専務理事 川村 巖



東北ILC推進協議会（共同代表／里見東北大学総長、高橋宏明東北経済連合会名誉会長）が9月7日、細田博之自由民主党総務会長を訪れ、「国際リニアコライダー」の日本誘致に向け、地方創生の観点から可能性を検討することなど、3項目を要望した。これより先の8月29日に、同協議会は北上山地に誘致する国際リニアコライダーの受け入れ体制を強化するため、「東北ILC準備室」（室長・鈴木厚人岩手県立大学大学長）を仙台市の東北経済連合会内に開設している。

「国際リニアコライダー」の日本誘致は、候補地が福岡・佐賀県境の背振山地と岩手県の北上山地で争っていたが、昨年夏に国際的な専門家によるILC立地評価会議において、北上山地を最適候補地とした経緯がある。当初アメリカ、スイスなども候補に挙がっていたが、最近では日本が有力となってきている。

とうほくPPP・PFI協会は、東北専門新聞連盟とともに東北の開発並びに振興と発展を図るため、官民による広範な地域活動を牽引する目的で、3省と東北6県、仙台市、奥州市、紫波町をオブザーバーに、2007年に「東北PPP推進連絡協議会」を発足し、国交省、経済産業省、農林水産省の国の出先機関3局長による「新春特別講演会」を毎年2月に開催するほか、東北ILC協議会から委託を受けてILC立地に関する調査報告をまとめ、東北6県の持ち回りで国際ILCへの理解を深め、実現推進方への啓蒙普及をねらいに、2013年よりフォーラムを開催し、誘致推進に一役買っていることから「国際ILC計画」と「東北放射光計画」を紹介したい。

ILC計画とは、地下100mの岩盤に全長31キロ（将来50キロ）の直線状のトンネルを掘り、加速器を設置。電子と陽電子の衝突実験を行い、宇宙創成の謎、時間と空間の謎、質量の謎に迫る国際的な学術研究施設で、応用範囲は医療・生命科学から新機能の材料・部品の創出、情報・通信、計量・計測、環境・エネルギー分野まで、非常に多岐にわたると考えられている。建設費は8,300億円で経済波及効果が4兆3,000億円と試算される。2020年代後半には運転開始が見込まれ、建設段階から運用段階に至る30年間で、全国ベースで約25万人分の雇用機会が創出されるという。また、日本の産業発展のカギを握ると言われる「東北放射光施設」も、東北の7国立大学が計画を立案し、宮城県内を候補地にプロジェクトが進行している。軟X線領域専用の東北放射光施設の建設費は約300億円で、建設着手から稼働まで最低4年必要で、学術研究や技術開発における軟X線領域の放射光の有用性が高く評価されており、世界の趨勢から取り残されないためにも、一刻も早い対応が急務となる。

東北にとって、東日本大震災からの復旧・復興を成し遂げたあと、「ILCと東北放射光計画」は、将来への夢をつなぐリーディング・ピックプロジェクトと言えよう。今年3月に策定された「震災復興から自立的発展へ」を掲げる東北の未来像「東北圏広域地方計画」のなかで、東北圏が目指す姿の将来像実現のための基本方針、広域連携プロジェクトの次世代産業の研究・産業集積拠点形成プロジェクトに「ILCと（仮）東北放射光施設」が盛り込まれたことは、産学官の連携による活動の大きな成果で、実現できれば東北創生に貢献できる若い学術研究人材育成に貢献し東北が学術研究都市に生まれ変わる機会ができる特筆される内容で、東北圏民あげて一刻も早い国の機関決定をのぞみたい。

技術者の一生と CNCP



個人正会員 小林 大

突然、皆川先生から、「CNCP 通信のコラムを書いてくれませんか？」という内容のメールをいただきました。それほど深く考えずに引き受けさせていただいたものの、「市井の一介の技術者である私には少々荷が重いのでは？」と後悔しつつ、末席とは言え CNCP の一員、気を取り直して筆を進めることとします。

1 技術者の一生

私は、地元の名古屋で橋梁のメンテナンスに関わる技術者を募り、2009 年から年 4 回程度の勉強会を主宰しています。同会員が所属する企業は、点検会社、調査会社、建設コンサル、設計会社、材料メーカー、ゼネコン、ファブなど多岐にわたり、会員は 100 名を超え、毎回 40 名前後の技術者が参加されます。ある時、勉強会に参加されたみなさんを拝見していて、頭の中にぼつんと、「私達のような市井の技術者は、技術者としてどのように一生を終えるのだろうか？」と思いが浮かびました。

2 H26 年以後の道路橋の点検事情

平成 26 年、私が専門とする道路橋においても定期点検が法令化され、日本国内に約 70 万橋の道路橋が存在することが明らかになりました（図-1）。

その約 93%を占める都道府県等や市区町村が管理する道路橋の多くが無点検であったことも明らかとなりました。この事実は、国民にとって青天の霹靂だったことでしょう。しかし、点検手間のひとつの指標となる橋面積に着目すると、橋梁数では約 93%を占めていた都道府県、市区町村が約 55%まで減少し（図-1）、無点検問題に対する印象が随分異なります。また、市区町村における減少が著しく、市区町村においては、規模の小さな道路橋が点検対象となることが伺えます。

3 CNCP との出会い

このような点検事情のもと、とりわけ市区町村が管理する道路橋に対して「定年退職された技術者が個人ベースで、もちろん、老後の生活に無理がない範囲で対価を得ながら点検に携われないだろうか？」と考えました。技術者として幸せな一生を終えられる一助にならないかと。ただ、そのためには、「技術者の病気など不測の事態に対するバックアップ」「技術者の継続教育」などの中間支援が必要と考えました。

このような考えを持ちつつ「インフラメンテナンス国民会議（仮称）」（※1）の準備会に参加したところ、CNCP でご活躍される有岡先生、皆川先生に出会うことになり、即、CNCP に参加させていただくことになりました。

※1 http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/O3activity/O3_O3.html

4 今後のこと

私たちは、短期間に近代化されたインフラが一斉に高齢化する場面に、幸か不幸か技術者として立ち会っています。そんななか、私が勤務する会社での職務である橋梁のメンテナンス技術の研究・開発、岐阜大学および愛媛大学において講師として関わらせていただいている「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座」、私が主宰する勉強会と言ったその他の活動が、CNCP への参加、そのきっかけとなった「インフラメンテナンス国民会議（仮称）」により、横断的、あるいは大きな流れによりひとつにまとまりつつある、そんなことを実感しています。

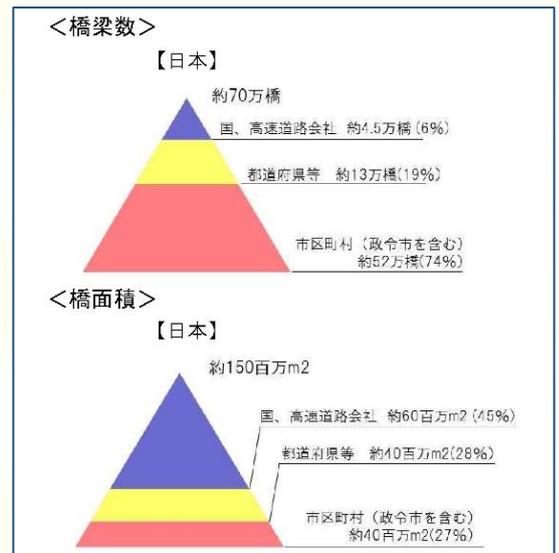


図-1 日本国内における道路橋の「橋梁数」と「橋面積」
※ 道路メンテナンス年報より引用

第4回 CNCP パワーアップセミナー 開催報告

常務理事 教育研修委員会 委員長 有岡 正樹

CNCP サービス提供部門教育研修委員会では、去る8月30日午後、第4回 CNCP パワーアップセミナーを開催し、練馬区で2001年～2013年にわたって実施された「市民協働まちづくりの事例」を学ぶ機会を得た。講演者を含め30名の定員に対して33名が参加の盛況で、その開催概要について以下に報告しておきたい。

1. 開催の主旨

住民と行政の“協働”には種々のものがあり、住民の参加の在り方も様々である。

練馬区は、昨年度都市計画マスタープランを改定した際、近年行われたまちづくりにおける“協働”の取り組みを、代表的な8つの事例として「まちづくりカルテ」の中でまとめている。それらはいくつかの視点で右表のように整理されている（後述の小場瀬令二氏講演 PPT 資料より）が、そのうち6件が市民側の提案であり、また協働の始まりが計画段階、事業実施中、さらには完成後等多岐多様であったことから、“協働”が生み出された背景とその実態から、今後、“協働”をどの様にして広め、推進すべきかを学び、ワークショップ形式で質疑応答、意見交換を行うことを企画した。

事例	協働の働きかけ	協議を始めた段階	主たる協議の場	住民グループの結成	まちセンターの支援	主な専門家	事業手法等	その後
①放射35号線通路	住民	実施中	住民	都市MP参加	なし	ジェネラル	まちづくり交付金	
②江古田密集事業	行政	計画・実施中	行政・住民	都市MP前後	街として支援中	コンサル	密集市街地	
③中村橋バリアフリー	行政	計画	行政・住民	(都市MP後)	なし	地元	区事業	
④光が丘カエル池	住民	完成後	住民	都市MP参加	活動助成	技術専門家	区事業	管理清掃
⑤白子川	住民	計画	行政・住民	都市MP前	活動助成	大学+地元	河川整備	普及啓発 清掃管理
⑥みんなの広場公園	住民	計画	住民	都市MP前・後	活動助成・技術支援	まちセン	区事業	運営清掃 管理
⑦千川通りまっぶす	住民	計画	住民	都市MP参加	活動助成	地元	都計道路	緑道自転車道計画
⑧春日町環八拡幅	住民	計画・実施中	住民	都市MP前	一部との助成	ジェネラル	都計道路+コミュニティ道路等	管理 清掃

2. 講演概要

講演は CNCP 蒔田 實委員司会の下、配布された右図に示す「練馬区都市計画マスタープラン：まちづくりカルテ」（製本125ページ版）を用いて、以下の3部構成で行われた。

(1) 練馬区の概要と協働のまちづくり (20分)

練馬区で前都市整備部参事としてこのまちづくり事業を担当されてきた阪田真司氏（現選挙管理委員会事務局長）から、練馬区の概要と、都市計画法に基づく都市計画マスタープラン事業遂行の経緯および平成27年度の改定マスタープランの策定に果たした自主懇談会作成「まちづくりカルテ」の役割について総論的な紹介があった。

(2) まちづくりでの様々な協働事例紹介 (50分)

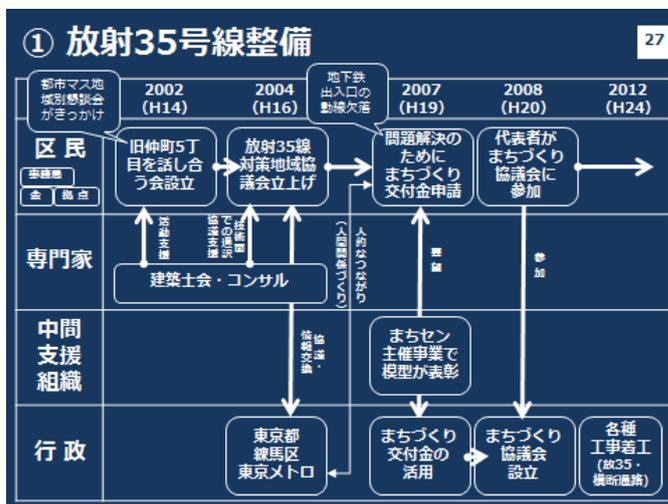
続いて、上記練馬区都市計画マスタープラン自主懇談会のメンバー代表的である奥村隆史氏と久村克彦氏により、上表の8つの「協働まちづくり」事例の紹介があった。これらは事例集として、「まちづくりカルテ」で写真や図表を使って分かりやすく説明されている。

それぞれの事業の概要に加えて、区民、専門家、中間支援組織、そして行政が事業によっては10年に及んだ相互協議が、例えば右図に示すように時系列的に整理して説明され、協働事業のあるべきプロセスを理解することができた。

(3) まちづくりにおける住民への技術支援と助成 (20分)

練馬区環境まちづくり公社みどりのまちづくりセンター所長の小場瀬令二氏は、上記8つの事例を前頁表に示すように整理、統括され、まちづくりセンターの役割を‘火種を見つけ、興し、扇ぎ、大火する’と例えて説明されたほか、‘いろいろな住民との協働と課題’や‘協働のための専門家のタイプ’といった紹介は、参加者にとって大いに参考になった。

また、議員さんからのプッシュや行政の下心があつたわけではなく、行政の思い腰を上げさせるには住民側の強い働きかけが重要であること、そしてだからこそ、前頁表の右端欄に追記されているように、そうした施設が完成した後もその管理清掃等に住民が関わっていることの成果に結びついている。



3. ワークショップ「事例に学ぶ」(ファシリテーター：CNCP 松本健一委員)

全員33名の参加者のうち、講演者、ファシリテーター、事務局、早退者を除いた24名が、5つのグループに分かれワークショップ(WS)形式の意見交換を以下の手順で行った。

- 1) まず最初の10分で各自が、①協働の事例についてさらに知りたいこと、②講演を聴いて気づいたこと、③自分の経験やスキルを活かしてできそうなことを、それぞれ思考し、それを3色のポストイットに記入することから始めた。
- 2) それらをベースにグループで話し合い、異なる意見を補完し意見を整理した後、グループごとの論点を発表し、それに関わるポストイットをホワイトボードに仕分けして貼り付けていく(右図参照)。
- 3) 5グループ統合して仕分けられた論点の内、いくつかについて講演者が説明を加える。



4. 総評

講演そのものについてはアンケート結果でも多くの評価を得ているが、WSについても時間が1時間と少なく成果は限られたが、今聴いたばかりの講演を今一度思い起こし、他の聴講者の意見も参考にできる等、単なる講演プラス数人によるQ&Aとは趣を異にしたセミナーの進め方として今後も継続したいと考えている。アンケートにも記載の多かったWS時間を少なくとも2時間とすることや、WSを伴う場合は全員が「ふりかえりシート」を利用して自らの論点整理をすることが必要である等、主催者が学ぶことも多く、次回以降の本セミナーに反映させたい。

● 設立理念

高齢化と人口減少が同時に進行し、人材の確保・育成が難しくなっている社会にあって、技術を空洞化させることは避けなくてはならない。弊会の名称にある温故創新とは、技術の継承に加え、かつての技術と現代の技術を融合し、時代に適合する技術を創造・提供することを意味している。

● 技術サービス部門

つぎの8つの部門の技術者を擁し、次項の事業分野においてサービスを提供している。

- 都市計画・地域整備 ○河川/下水道 ○道路 ○鉄道 ○土質及び基礎
- 橋梁・構造 ○トンネル・地下空間 ○品質/プロフェッション

● 事業分野

(1) 技術継承事業

大学への出前講座、企業内での技術講習などの形で次世代の人材への技術の継承を図っている。

(2) 指導育成事業

協会の地域支援事業におけるアドバイス、企業内の若手技術者の自己研鑽に資する講話などを行っている。

(3) 技術普及事業

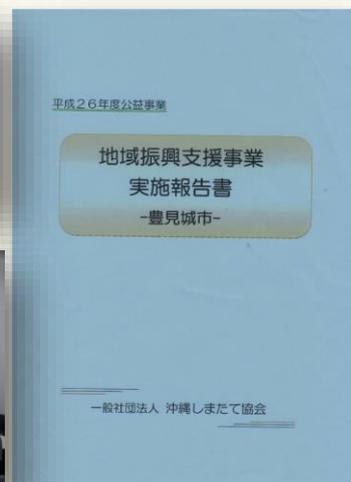
リニアメトロに関する研究の経緯や橋梁等技術の歴史的変遷などについて講演などを通じて技術の普及を図っている。

(4) 技術協力事業

類似団体と技術の交流を行っている。

(5) その他事業

教材ビデオの上映・解説、回顧録の作成支援などを行っている。



● 研鑽

現役を退いた会員が多いので、「技術上の成功・失敗談」、「踏切事故の解消」、「橋梁の長寿命化」、「災害時の情報伝達」、「諸外国の交通事情」、「災害と安全」などをテーマとする個別発表や共同学習を通じて相互研鑽に励んでいる。活動の成果は、HPに公開している。

● 課題

会員の確保・若返り、顧客の拡大など本質的な課題を抱えており、会の魅力を付加すべく鋭意努力している。



特定非営利活動法人 温故創新の会

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目4番地3

建設コンサルタンツ厚生年金基金内

理事長 清野茂次 事務局長 大野博久

e-mail ; office@onkososhin.com http://www.onkososhin.com

「協働コーディネーター養成講座」の開講

教育研修委員会

2016年7月発行の本通信 Vol.27号のサービス提供部門活動紹介「教育研修分野の拡大」の中で、
 ‘(2)市民連携の考え方とスキルを学ぶ’とし題して、各地域の公的事業毎の利害関係者（行政、市民・地域組織、企業等）が多様な担い手として合意形成を図りながら、それらの事業に参加・協働していくことの重要性を学ぶ計画があることについて述べた。

その背景には、地域活動推進部門との協働活動である「自治体インフラメンテ研究会」として、現在深く関与している国交省主管の「インフラメンテナンス国民会議（仮称）」（本年11月設立予定）がある。国民会議そのものの動向は次号以降のこの記で触れることになるが、その設立準備会の中でも市民参画や国民理解といった視点が注目されており、その議論にはサービス提供部門が今後とも積極的に関与することになっている。

インフラメンテに限らず自治体の公的事業遂行では、個々の組織内に始まり、全利害関係者が絡んでの合意形成段階に至るまで、ワークショップ（国民会議準備会でも多用され出している）が様々なレベルで展開されることになるが、それが功を奏するためにはファシリテーターやコーディネーターと称する専門的な素養を有した人材が必要となる。そのような視点に立って当面は、CNCP 内部にそうした素養の上級者やフェロシップクラスの専門家を保有し、自治体を支援すると共に地域の NPO 法人にその人材を育てていくための研修、実習を行うこととした。

それぞれの地域社会に密着した課題解決に向けて、行政や企業、教育・研究機関、そして地域・市民組織とのパートナーシップを醸成し、より良い地域社会の構築を図ることを目的とする。

養成講座は、下表に示すような内容について講義で学び、それを生かしてのワークショップ・トレーニングや現地実務および初級者講習講師実習などを以下の2段階に分けて、計5日で行う。

- ・第1段階：初・中級講習1日、事例講演とその成果を反映のWS実習1日の計2日。
- ・第2段階：中・上級講習1日、コーディネーターとしての具体的事業を対象にしたWSの企画、実施1日、初級者講習講師1日の、計3日。

「協働コーディネーター養成講座」講義内容（世古委員による）

No.	項目	概要
1	協働コーディネーターとは	・その理念と果たすべき役割
2	コーディネーターとファシリテーター	・それぞれの概念と役割の違い
3	ワークショップとは	・ワークショップの種類
4	ワークショップの組み立て方	・アイスブレイキングの役割といくつかの事例 ・ワークショップの展開の仕方
5	情報カードの活用	・情報カードの書き方 ・情報カードの整理の仕方とルール
6	まとめの仕方	・ワークシートの作成 ・ダイアグラムの作成の手順
7	発表	・発表の仕方とその工夫
8	ふりかえり	・ふりかえりの意味と意義 ・アンケートとふりかえりの違い ・ふりかえりの多様な方法

まず最初は、受講者の一般公募ではなく、CNCPの様々な事業活動の横串として、それぞれの事業の担当者を対象にということで15名位の人選を考えている。修了者はCNCPとしての協働コーディネーターチームの一員として、積極的に事業活動に関わっていくことになる。

平成29年以降には賛助会員やサポーター等を対象に受講枠を広げ、本通信でも公募する。

水辺で乾杯！



個人正会員 小松崎 暁子

CNCP の活動で知り合った水戸市の M さんより情報をいただき、国土交通省の事業<ミズベリング>が企画するイベント「水辺で乾杯」に埼玉県吉川市から参加しました。

このイベントは、日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトの一環として、「7月7日（水の日）の午後7時に水辺に集まり、全国一斉に乾杯する」というもので、川を感じ、川の歴史に思いを馳せ、優雅な時間を共有するのが目的です。

私は市民活動団体「中川の会」のメンバーとして、地域の財産である中川をもっと身近に感じ、活用していきたいと願っており、「中川の会」主催で開催することにしました。

中川の会では、市の総合振興計画や国・県との交渉、「川の駅」誘致についてなど難しいことはチームのメンバーである専門家の方たちが進めて下さってまして、私に出来ることは、「楽しむこと」くらい。そういう意味ではこの「水辺で乾杯」が私の出番！というわけです。

話は変わって私の住む吉川市は江戸時代から幕府直轄の天領として、中川の水運で江戸に物資を運んでいた歴史があります。船着き場にはたくさんの料亭が軒を連ね賑わっていました。当時から現在に続く老舗料亭のひとつ「福寿家」さんが今回、雨天に備えて川に面したお座敷をイベントのために開放して下さいました。

私も何か出来ることはないかと、川の守り神「河童」に変身して参加者をお出迎えすることにしました。当日、和服姿の美しい女将さんの横で河童が「ようこそ！」ですから、もう皆さんお腹を抱えて大笑い。川のほとりの料亭で、河童も一緒に乾杯！「楽しかったよ」「来年も呼んで」とたくさんの「ありがとう」を頂きました。河童は「中川の会」啓蒙のためこれからも活動していこうと心に誓いましたとさ。出会いに感謝。



「CNCP アワード2016」エントリー概要

初めて開催された「CNCP アワード」。その受賞事業については前回お伝えいたしましたが、受賞事業のほかにもたくさんの素晴らしい事業の応募がありましたので、エントリー概要をお伝えいたします。

実績のある事業についての「ベスト・プラクティス部門」では12件、事業提案についての「ベスト・アイデア部門」では8件の応募がありました。各事業の内容はCNCPのホームページに掲載してあります。

事業化推進部門 ワーキングリーダー **三上 靖彦**

●ベスト・プラクティス部門（エントリー12件）

エントリー NO.	申請者	事業名称
BP-NO.1	NPO 法人風土工学デザイン研究所	風土工学の普及啓発
BP-NO.2	NPO 法人グリーンアース	建設業の活性化と技術の伝承を目的とした人材育成・継続学習並びに新技術開発研究
BP-NO.3	NPO 法人市民歩走者学会	一般市民を相手に歩道や公園や緑道等を活用する観光ランニングの開催事業
BP-NO.4	NPO 法人茨城の暮らしと景観を考える会	公民連携による地域再生プロジェクト
BP-NO.5	NPO 法人都市住宅とまちづくり研究所	東日本大震災 宮城県東松島市あおい地区における防災集団移転等の支援活動
BP-NO.6	NPO 法人スリム Japan	東日本大震災における津波がれき処理に関する提案と課題の伝承
BP-NO.7	(株)ウッドプラスチックテクノロジー	軽量のウッドプラスチック製養生用敷板の普及による環境負荷低減事業
BP-NO.8	NPO 法人シビルまちづくりステーション	校庭の芝生化支援事業
BP-NO.9	NPO 法人伊万里はちがめプラン	「生ごみを宝に」食資源の循環型社会を目指して
BP-NO.10	NPO 法人建設技術監理センター	工事監査（建設技術調査業務）による技術者教育
BP-NO.11	(株)ガイアート T・K	民間事業者による有料道路白糸ハイランドウェイの道路運営事業
BP-NO.12	NPO 法人道普請人	土のう工法の普及活動を通じた未舗装道路整備のインクルーシブビジネス化

●ベスト・アイデア部門（エントリー8件）

エントリー NO.	申請者	事業名称
BA-NO.1	(株)寺田鉄工所	太陽熱利用による地球温暖化防止への取り組み
BA-NO.2	NPO 法人シビルサポートネットワーク	地方自治体のインフラの維持管理を支援する有限責任事業組合
BA-NO.3	旭建設株式会社	最新型橋梁点検車を加えた、新たなインフラ点検業務の確立
BA-NO.4	(株)まちみと	まちづくり会社による「共感まちづくり」の実現
BA-NO.5	NPO 法人スリム Japan	南太平洋諸国での地球温暖化による海面上昇対策事業の企画提案
BA-NO.6	黒崎健二（個人）	江戸時代の共助のまちづくり再生構想「水戸藩（HAN）」プロジェクト
BA-NO.7	中川の会	中川を活かしたまちづくり



日本初の建設系 NPO 専門 クラウドソーシング

『シビル・マッチ』

<http://civil-match.org/>

クラウドソーシングとは、インターネット上で
委託者と受注者をつなぐ新しい形の働き方を実現するシステムです。

シビルマッチの登録はお済でしょうか？法人正会員、個人正会員、賛助会員の全ての会員にご登録をお願いしております。

下記のトップ画面からまずはメールアドレスをご登録頂ければOKです。CNCP 会員の皆様の登録手続きをお願いします。

シビル マッチ

CIVIL MATCH

プロジェクト

[メンバーの会員登録](#) [クライアント登録](#) [ログイン](#)

プロジェクト方式案件

クライアント検索

メンバー検索

お問い合わせ

メールアドレス仮登録

入力したメールアドレスに仮登録完了メールが送られます。
届いたメールに記載のURLをクリックして、開いた画面で本登録に必要な情報を入力して下さい。

メールアドレス

受信可能なメールアドレスを入力して下さい。

平成 28 年度通常総会・CNCP アワード表彰式のご案内

下記の通り平成 28 年度通常総会ならびに CNCP アワード表彰式を開催いたします。ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席いただきますようご案内申し上げます。

■ 日 時 平成 28 年 10 月 31 日 (月) 13:30~18:00

■ 場 所 土木学会講堂

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目 (外濠公園内) TEL03-3355-3441

■ プログラム

13:30~15:00 総会

15:30~16:55 CNCP アワード表彰式・プレゼンテーション

17:05~18:00 懇親会 (会費 1,000 円)

事務局通信

1. 10月の会議予定

- ・ 10月14日(金) 14:00~16:00: 運営会議
- ・ 10月14日(金) 16:15~17:30: 教育研修委員会
- ・ 10月18日(火) 15:00~17:00: 自治体インフメンテ事業化研究会
- ・ 10月24日(月) 16:00~17:00: アワードワーキング
- ・ 10月26日(水) 15:00~17:00: シンクタンクチーム

2. 10月1日現在の会員数

法人正会員 19、個人正会員 24、法人賛助会員 34 合計 77

事務局

お問い合わせは
こちらまで

特定非営利活動法人

シビル NPO 連携プラットフォーム

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 13 番地 7
名古屋ビル本館 2 階 コム・ブレイン内

事務局長 内藤 堅一: info@npo-cncp.org

ホームページ URL: <http://npo-cncp.org/>